

作文コンクール「Leading to the Future 未来に向かって～教師・夢・感動～」

2017年 優秀賞作品「彼と私」

大阪府立夕陽丘高等学校 2年 桑田はるかさん

私が教師を目指すきっかけとなった一つに彼の存在があります。

彼とは中学三年の時に同じクラスになりました。中三と言えば、高校受験という大イベントがあり、中二まではのんびりしていた周りの友達も受験モードになり、一回一回のテストに、目の色を変えていました。もちろん私もその一人でした。

しかし、彼はいつも通りマイペースでのんびりと学校生活を送っていました。彼は、一日の半分を養護学級で過ごしていたので恐らく私達のように受験しないと思っていました。不思議なことに彼は人の顔を見て会話をしませんでした。

ある日の授業中、席が隣だった彼に私はふざけて丸めた紙屑を彼の机にポイッと投げました。すると彼の思いもよらない行動に私は驚きました。彼はその紙屑を私の机にポイッと投げ返してきたのです。きっと彼ならその紙屑を無視して、机の下に捨てるか、先生に言いつけるかどちらかと思っていたので、面白くなって、授業中にも関わらず紙屑キャッチボールをしてしまいました。その日から徐々に彼への接し方が自分の中で変化した様に思います。気が付いたら普通に話しかけに行ったり、彼が数学の問題に苦戦しているのを見て、思わずペンを取り、向かい合って教えてあげたりしました。彼は一生懸命私の説明を聞いてくれました。

あるテストの返却日、旨の前に答案用紙を大事そうに抱いた彼が「何点やった？」と私に聞いてきたのです。私は彼に「自信あるの？」と聞き、自分の答案用紙を彼に見せると、少し顔が曇り、彼は答案用紙を見せようとしなかったので、「私も見せたから見せてよ」と彼に強く言ってしまいました。すると、彼は申し訳なさそうに自分の点を私に見せてきたのです。その点数は私の想像をはるかに超える良い点数だったので「すごいやん。よく頑張ったな」と思わず言ってしまいました。彼はとても嬉しそうにニコッと笑っていましたが、やはり、私を見てくれませんでした。しかし、彼の心の中の目で私に微笑みかけてくれた様な気がしました。そして、卒業前に担任の先生から「はるかには本当に感謝してたよ。いつも彼の面倒を見てくれてありがとうね」と言われました。先生も又私をしっかり見ていてくれたのでした。

人は自分の存在を理解してもらおうとするならば、自分も相手を理解してあげないといけないという事を彼から学びました。理解するというのは全て相手の言っている事を肯定してあげるという事ではなく、しっかりと聞いてあげて、見てあげて、適格な評価をしてあげる事だと思います。私は生徒の言っている事にしっかりと耳を傾け、お互いの存在価値を理解し合える教師になりたいと思っています。